

PHAYAOLレポート 2006-05

“自然循環エコトイレ” 第4号完成

セーンサイ村「モンの文化センター・図書館」にかねてより建設中の文化センター（全郵政労組からの贈り物）に、

エコトイレ第4号目が完成しました。

不特定多数の半公衆トイレとしては、初めての為、これからの稼働の行方が注目されています。

設置条件も悪く、使用者も不定期で、さらに平坦な土地のためかなりの工夫を要しましたが、発想の転換で段差を確保することはできました。

配管を延長すれば、難なくできますが、材料費、と労力の節減のため新工法を見だし、施工しました。

使用者数が不特定のため第1槽（消化槽）を大きくし、さらに2，3槽も余裕を十分見て設計しました。また、初めての試みで、トイレ内部への逆臭防止装置を安価にできる方法を考案しました。

設置状況をご覧ください。



処理槽設置状況



完成状況（未植栽）



土壌処理部（果樹苗植栽予定）

「1号～3号その後の稼働状況」

第1号 4回目の収穫・成育状況

すでに4回目をむかえた収穫前の状況です。

野菜の種類も替え、長豆の栽培を試みました。結果大成功のようです。

経過観察をお願いしている、お父さんもまんぞくの様子で、曰く「味も格別で、これほどのできればは、今まで見たこともない」と嬉しそうに笑っていました。

この次は、トマトやスイカを植えてみたいそうです。
人糞でできた野菜は、柔らかく、甘みが多いのが特徴のようです。
タイでは、ほとんどの野菜は、生で食べます。
この長豆もちろん、私も、生でいただきました。
日本のものと味は同じでしたが、「青臭い、でも、おいしい（アロイ）」でした。



収穫最盛期の「長豆」と、お父さん



第1号 畠の4回目の栽培2006年7月13日

第2号 シャンティ寮（女子トイレ）の経過状況

既設の改修で**困難を極めた**だけに、様々な「工夫の効果や・いかに！！」

さっそく「ミミズさん」がやってきた

“人間の餌は、アロイ・うまい”



20cm×20cm当たり、2種類のミミズ5,6匹



異状に成長した根（消化槽ガス抜き処理部分）

今回施工した土壌処理部のいずれも経過と共にミミズの繁殖が盛んなことが判明しました。（ミミズも難分解物質を食べてくれているように思えます。）

また、工夫を凝らしたガス抜き処理部分に**驚異の現象が表れている**ことを観察しました。（注目経過観察実施中）

第3号 シャンティ寮（男子トイレ）の経過状況

これも、既設の改修のため段差が取れず、幸い隣地との段差があったため傾斜地を利用した構造の土壌処理部を施工しました。

結果、処理水の浸透速度が速いせいか、作物に好ましい結果が伺えます。言うならば、これまた驚異の成長のようです。

現地スタッフも初めての経験と“びっくり”していました。



傾斜式土壌処理部



驚異の成長ぶり

自然循環トイレを「設置してから9カ月・・・住民の反応は、？」

- 臭いが無くなり快適になった（汚い村のイメージがあったがみんなやれば、誇り）
- 便所とも思えない、きれいになってとても良い（便所に花が植えてある）
- 野菜がこんなにできるとは思ってみななかった（できた野菜がおいしい）
- 病気も無くなるだろう（回虫や、ハエ・蚊の発生源が絶たれるので有効である）
- 自分の家で、早くやりたい（やってほしい）
- 今家を建て替えているので、作り方を教えてほしい
- 早く知っていれば、やりたかった（家を建て替えトイレを造ったばかり）
- 今当分はお金がないからできない（汲み取りもままならない）
- 村のみんながやったらきれいになるだろう（共同処理・集落排水も必要）
- オボドー（住民組織の一部）に頼んで補助金をもらえば良い（可能性あり）
- 古井戸につないで捨てる人がいる（地下水汚染のPRも必要）
- 川に流せばきれいになる（公衆トイレの一部は、流しているところもある）

等多くの意見が寄せられています。

これら住民の意見のとおり、必要性についておおかたの理解を得ました。

このことから地域環境・生活衛生について

「このモデルをとおして地域住民が、自ら考えるきっかけとなった」ことは、

所期の念願であり・大きな成果です。

これからの住民の意向と行動が注目されます。（今後は、全面的なバックアップ体制と協力が必要であり、地域環境・生活衛生について重視し完全自立の協力支援を継続します。）